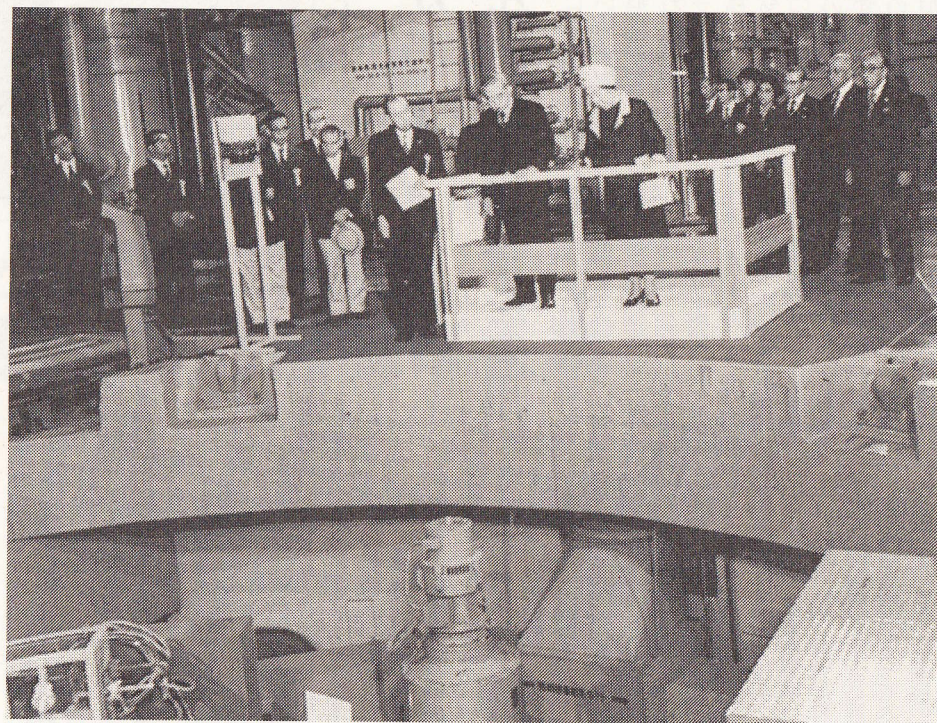


皇室と原子力

時代は昭和から平成へ
——。七日に崩御された
大行天皇（昭和天皇）、
直ちに第百二十五代の皇
位につかれた新天皇陛下
とともに、多くの原子力関
係施設を「覧」になってい
る。今号では、そのうち
のいくつかを紹介する
（皇位・役職などは当時
のもの）。



△「無公害社会の創造」を基本テーマとした「76世界環境展」——東京・晴海の国際見本市会場、昭和51年5月31日▽日本原子力産業会議も「これからの原子力——クリーン・エネルギーの期待」をテーマに参加し、開会式で皇太子殿下は「健康で豊かな環境を造り出すためには最新の知識と技術が求められなければならない」と、お言葉を述べられた。写真は、皇太子ご夫妻とご説明する有沢広巳原産会長（左の後ろ姿）。

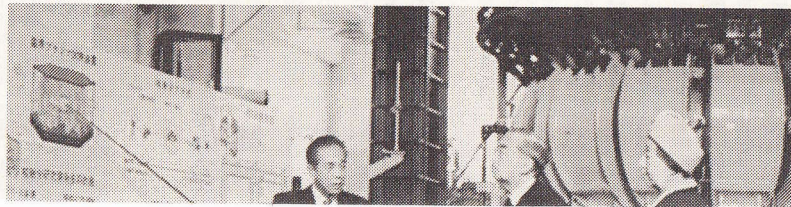


＜動燃事業団・大洗工学センター、昭和49年10月21日＞ 天皇、皇后おそろいで完成まじかの高速実験炉「常陽」をご覧になった。陛下は説明役の清成迪理事長に「原子力エネルギーは今後ますます重要になってくるでしょう。しっかりやって下さい」と激励された。

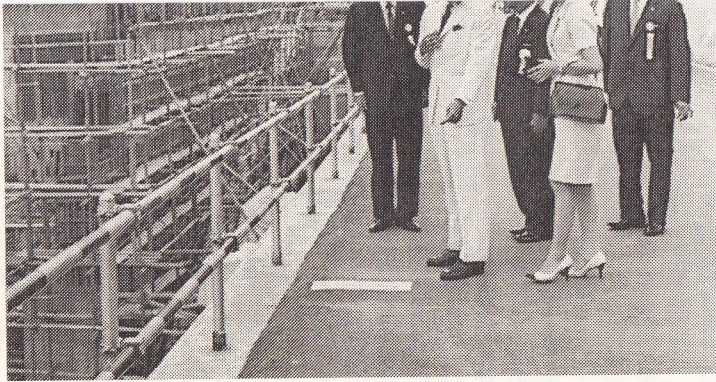
△関西電力・美浜原子力
美浜1号機の工事現場



△日本原子力研究所・
合実験装置JFT-2
ら説明を受けられる面
どもに興味をもたれた



発電所、昭和43年9月6日
を視察される皇太子ご夫妻。



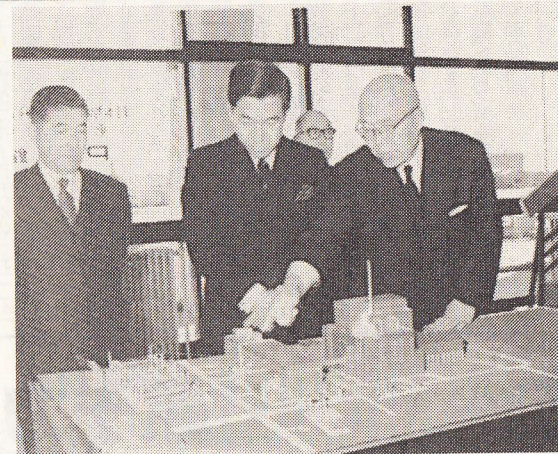
東海研究所、昭和49年10月21日
を、覧になり、山本賢三東海研究所長か
。陛下。核融合と核分裂の特徴、経済性な



＜動燃事業団・大洗工学センター、昭和47
年7月18日＞

大山彰理事（左から三人目）から高速増殖
炉燃料の説明を受けられる皇太子殿下。中曾
根康弘科学技術庁長官（同四人目）や井上五
郎初代理事長（同五人目）の顔も見える。

△原子力船「むつ」の進水
式、昭和44年6月12日
京・江東区豊州の石川島播磨
重工業東京第二工場で行われ
た進水式に皇太子殿下と出席
され、銀色の手傘で支綱を切
られる美智子妃殿下（右）。



＜日本原子力発電・東海原子力発電所、
昭和44年10月26日＞ 運転を開始した東海
発電所のPR館で、一本松珠機社長（右）
から説明を受けられる皇太子殿下。



△放射線医学総合研究所、昭和50年5月26日
クロトロン患者治療室を、覧になる皇太子殿下。左端
は御園生圭輔所長。皇太子殿下は36年12月、44年10月
にも放医研を訪問されている。

